

様式第1

ばい煙発生施設設置（~~使用、変更~~）届出書

年 月 日

（宛先）富山市長

（〒000-0000）

氏名又は名称及び住所 富山市新桜町○番△号
届出者 並びに法人にあつては 凸山精密工業株式会社
その代表者の氏名 代表取締役 凸山 凹夫

大気汚染防止法第6条第1項（第7条第1項、第8条第1項）の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	凸山精密工業株式会社 本社工場	※ 整理番号	
(〒) 工場又は事業場の所在地	(000-0000) 富山市新桜町○番△号	※ 受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	1項 ボイラー	※ 施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※ 審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※ 備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

別紙 1

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		No.1	
名称及び型式		◎重工業製貫流ボイラー A00 型	
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		A年 B月 C日	年 月 日
使用開始予定年月日		α年 β月 γ日	年 月 日
規	伝熱面積 (m ²)	12.0	
	燃料の燃焼能力 (重油換算 l/h)	150.0	← 最大能力を記入
	原料の処理能力 (t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (KVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)		
	焼却能力 (kg/h)		
模	乾燥施設の容量 (m ³)		
	電流容量 (KA)		
	ポンプの動力 (KW)		
	合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)		

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。

3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格 A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		No.1					
使用状況	1日の使用時間及び 月使用日数等	8時～8時 24時間/回 回/日 20日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月			
	季節変動	無					
原材料 (ばい煙の発生に 影響のあるもの に限る。)	種類						
	使用割合						
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分		
	1日の使用量						
燃料又は電力	種類	A重油					
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.0	いおう分 0.06	窒素分 0.01	灰分	いおう分	窒素分
	発熱量	43,000J/g					
	通常の使用量	105L/h					
	混焼割合	専焼					
排出ガス量(Nm ³ /h)	湿り	最大 1600	通常 1100	最大	通常		
	乾き	最大 1450	通常 1030	最大	通常		
排出ガス温度(℃)		260					
排出ガス中の酸素濃度(%)		4.0					
ばい煙 の濃度	ばいじん(g/Nm ³)	最大 0.15	通常 0.10	最大	通常		
	いおう酸化物(容量比 ppm)	最大 32.0	通常 32.0	最大	通常		
	カドミウム及びその化合物(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	塩素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	塩化水素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	鉛及びその化合物(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	窒素酸化物(容量比 ppm)	最大 150	通常 130	最大	通常		
ばい煙量	いおう酸化物(Nm ³ /h)	最大 0.048	通常 0.033	最大	通常		
参考事項							

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載すること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		煙突 1		
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		No.1		
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		煙突 陣笠あり		←陣笠有無明記
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
着 手 予 定 年 月 日	A年 B月 C日	年 月 日	年 月 日	
使 用 開 始 予 定 年 月 日	α年 β月 γ日	年 月 日	年 月 日	
処 理 能 力	排 出 ガ ス 量 (Nm ³ /h)	最 大		
		通 常		
	排 出 ガ ス 温 度 (°C)	処 理 前		
		処 理 後		
	ば い 煙 の 濃 度	ばいじん (g/Nm ³)	処 理 前	
			処 理 後	
		いおう酸化物 (容量比 ppm)	処 理 前	
			処 理 後	
		カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	処 理 前	
			処 理 後	
		塩 素 (mg/Nm ³)	処 理 前	
			処 理 後	
		塩 化 水 素 (mg/Nm ³)	処 理 前	
			処 理 後	
	弗素、弗化水素及び 弗化珪素 (mg/Nm ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	鉛 及 び 其 の 化 合 物 (mg/Nm ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	窒素酸化物 (容量比 ppm)	処 理 前		
		処 理 後		
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最 大	処 理 前	
			処 理 後	
		通 常	処 理 前	
			処 理 後	
捕 集 効 率 (%)	ば い じ ん			
	い お う 酸 化 物			
	カドミウム及びその化合物			
	塩 素			
	塩 化 水 素			
	弗素、弗化水素及び弗化珪素			
	鉛 及 び 其 の 化 合 物			
	窒 素 酸 化 物			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～ 8時 時間/回 回/日 20日/月	時～ 時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動	無		
排出口の実高さ H _o (m)		10 φ0.8		
補正された排出口の高さ H _e (m)		10		
排 出 速 度 (m/s)		9.0		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 補正された排出口の高さH_eは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。